

八戸学院大

大谷学長 3月末退任

任期満了 法官理事長が兼務

八戸市の学校法人光星学院が運営する八戸学院大の大谷真樹学長(56)が任期満了となる3月末で退任し、4月から法人の法官新一理事長(69)が学長を兼務する予定であることが5日、関係者への取材で分かった。大谷氏は、法人が進める海外展開事業のけん引役として法人理事に留任し、法人子会社「八戸学院グループ」の社長に専念する。

(福田駿)

関係者によると、同日の理事会で決定した。同じく短期大学の外崎充子学長



大谷 真樹氏



法官 新一氏

(76)も年度末で退任となるため、短大の学長も法官氏が兼任する。近年進めている海外進出事業を本格化させるため、法人内で教育分野と事業分野の役割分担を明確化するの狙いとみられる。学長

の後任には、光星学院高(当時)の校長を務めるなど、教育現場の経験が豊富な法官氏が適任と判断したもようだ。

大谷氏は会社経営などを経て、2012年に八戸大(当時)学長補佐から学長に就任し、現在2期目。近年はフィリピンへの学校開設などの海外展開事業に先導して取り組んできた。今後、同大での講義や、09年から実施している「起業家養成講座」は継続する予定という。

一方、両大の学長に就任予定の法官氏は取材に対し、「教育、研究、地域貢献」という大学本来の役割により力を入れたい」と語った。